

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈小・社会〉

特別研修員 社会 樋口 晃（小学校教諭）

単元名 『自動車をつくる工業』（第5学年） 全8時間計画

単元のねらい

我が国の自動車生産に従事する人々の工夫や努力、貿易や運輸の様子からその働きや役割を考え、それらが自動車工業を支えていることを理解できるようにする。

単元構想の意図

本単元では、我が国の工業生産に関わる人々が、消費者の需要や社会の変化に対応し、様々な工夫や努力をして工業生産を支えていることを理解させていきます。つかむ過程で「単元の課題」を立て、その課題を解決するために何を、どのように調べていくか学習計画を立てさせます。追究する過程では、調べた事実を基にした児童一人一人の考えを共有し合い深めさせます。まとめる過程では、追究の過程で理解してきた内容を総括し「単元の課題」に対する結論を導き出せるように構成しました。

過程

つかむ(2)

追究する(5)

まとめる(1)

主な学習活動

1. 「単元の課題」を把握する

- 写真やグラフから読み取ったことや資料の比較から出てきた疑問を基に単元の課題を立てる。
- 「単元の課題」を解決するにはどのようなことを調べればよいか予想し、「単元の課題」の解決に迫る学習計画を立てる。



自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。

2. 「単元の課題」の解決に向け、単位時間ごとに追究をする

- 自動車づくり全体の流れを調べる。
 - ・危険作業や重たいもの → 機械で
 - ・細かい作業 → 人の手で
- 組み立て工場で働く人々の工夫を調べる。
 - ・ひもスイッチやアンドン → 異常を知らせる
 - ・指示ビラ → 消費者の注文を確認しながらつくる

〈一単位時間ごとの児童の思考〉

速く正確にたくさん

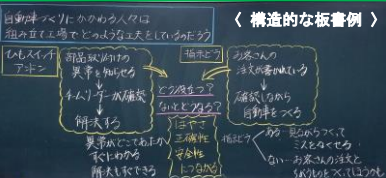
安全につながる

ミスなく効率的



つながりが強く一つの工場のように

ニーズに応じてどんな立場の人にも、環境にも優しい車を生産



- 組み立て工場と関連工場のつながりを調べる。
 - ・組み立て順に部品を並べて関連工場から組み立て工場へ部品を輸送
 - ・ジャストインタイム
- 外国とのつながりを調べる。
 - ・日本からの輸出も多いが現地生産も増加
 - ・外国の消費者へより速く、より安く
- 安全や環境に対する工夫について調べる。
 - ・日々努力を重ね多くのものを開発
 - ハイブリッド車、自動運転・自動ブレーキ
 - 足が不自由な人でも手だけで運転できる車 など

3. 「単元の課題」についてまとめる

- 単元全体の学習を振り返り、一単位時間ごとに解決してきた自動車工業に関わる諸事象を基にキャッチコピーを作成する。そのキャッチコピーをクラス全体で分類するとともに、分類した視点や根拠を話し合い、単元の課題に対する結論をまとめる。



指導のポイント

単元のゴールに向かうつながりのある授業展開

本単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その力を身に付けさせるために、一単位時間ごとにどのような授業展開をすればよいかを逆算して構想をする。単元全体が相互に関わり合い「単元の課題」に対する結論を導き出せるようにする。

単元への興味・関心をもたせる

自動車工業に関わる事象と驚きのある出会いができるようにするために、資料を精選し提示の仕方もICT機器を活用し大きく映したり、細かい部分をズームしたりするなど工夫をする。使う資料は学びにつながるをもたせられるよう追究の過程で活用するものにする。

単元の課題への意識・学びの見通しをもたせる

児童が自分たちで立てた学習計画を教室に掲示しておくことで、いつでも単元の課題や学びの見通しを確認できるようにする。学習計画に沿って問題解決的な学習に取り組ませることで主体的に課題を解決できるようにする。

自動車をつくる工業

単元の課題 自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。

「単元の課題」を解決するための学習計画

- ① 自動車ができるまで
- ② 自動車づくりの工夫
- ③ 関連工場とのかわり
- ④ 外国とのかわり
- ⑤ 安全や環境に対する工夫
- ⑥ 単元全体のまとめ

児童一人一人の考えを共有し合い深めさせる

教師がファシリテーターとなり、児童の考えをつなぎ深めたり、ペアやグループで児童同士の考えを交流させ深めたりする。教師がどのように考えを深めさせたいかを明確にし、手立てを変える。

児童の思考が構造化されていく板書・ワークシート

- ① 資料から得た事実
 - ② 事実を基にした自分の考え
 - ③ 交流で深まった考え
 - ④ 考えを共有し一般化したクラスとしてのまとめ
 - ⑤ 振り返り
- 考えや学びを収束させる。



児童の思考をつなげさせる

一単位時間ごとの学びを関連付け、単元全体を通して「単元の課題」の結論に向かわせる。

単元を通して学んできたことをまとめさせる

追究の過程で得た「具体的な事実に関する知識」などの共通点や関連性を自分たちで考え導き出せるような活動を取り入れる。本単元ではキャッチコピーを基に話し合いまとめたが、新聞やポスター、カルタを作成してまとめていく活動などもその一つとして考えられる。

指導例：『自動車をつくる工業』（第5学年 第1時）

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○自動車やその生産にかかわる資料を提示し、本単元では自動車づくりに関する学習をしていくことを確認する。

T：今日から新しい学習内容になるけど、単元の始まりにはいつも何を
しているかな？

S：「単元の課題」を立てます。

S：そうですね、資料を見て気付いたことや疑問に思ったことを基に
して「単元の課題」をみんなで立てていきましょう。

〈めあて〉 自動車やその生産に関する資料を基に、自動車づくりの
学習について単元の課題を立てよう。

めあての設定

○「単元の課題」を立て、その課題を解決するために何を調べればよいか考え、実際に調べていくといった学習スタイルを日頃の授業から身に付けさせておく。

2 一人一人が本単元の社会的事象に関わる資料を基に、疑問や調べたいことを考える。

○本時で使用する資料がすべて載っており、考えを構造化できるようなワークシートを使い学習を進める。

○学級全体で資料を読み取る視点などを確認してから個の活動に移る。

○新旧の自動車、自動車工場の写真、日本の乗用車の普及率や生産台数の変化のグラフ、1台の自動車に使う部品数や組み立て時間などの資料から読み取ったことを既知の知識と関連付け、気付いたことや疑問に思ったこと、調べたいことをワークシートに記述する。

T：現在の車には自動でブレーキがかかる機能があるんだけど、他にも何か知っていますか？

S：自動運転やカーナビもあって便利になっています。

S：ガソリンじゃなく電気で走る車もあります。

S：昔の車と比べると、進化してとてもすごい車になっていますね。

T：グラフからはどんなことが読み取れますか？

S：昔は違ったけど今はほとんどの人が車を持っています

S：生産台数もどんどん増えています。

T：車づくりの面で気になったことは？

S：部品が3万個もあるんだ・・・

S：それを約17時間で組み立てるなんて本当かな？どうに

ついているか気になりました？



課題意識が高まる資料

○新旧の自動車の比較では、児童の視点が形の変化ではなく性能面に向くように自動ブレーキを例としてあげ、性能面での既知の知識と結び付きをもたせられるようにする。

○部品の数や生産時間を見て、「自分だったらつくれるか」と問いかけることで「できなそう」「なんでもできるのか」といった実感のある疑問をもてるようにする。

○「単元の課題」を設定する際の資料は、追究の場面に関わりのある資料を意図的に使うことで、単元全体のつながりをもたせられるようにする。

全体での共有・焦点化

○児童一人一人の気づきや疑問をクラス全体で共有し、キーワードとして焦点化していく。本時では児童の発言を基に「よりよい自動車」、「たくさんつくっている」、「工夫や努力」をキーワードとした。

3 学級全体で、社会的事象についての疑問や調べたいことの焦点化を図る。

○気付いたことや疑問に思ったことを発言する。

T：どんなことに疑問を持ち、調べてみたいと思いましたか？

S：どうしてこんなに性能のよい車をつくれたのか疑問に思いました。

T：こんなにたくさんつくってどこに売っているのか疑問に思いました。僕の家ではそんなに何回も車を買いかえません。

S：3万個の部品を間違えずに組み立てるなんて私にはできなそうです。どうやって間違えずにつけているのか調べてみたいです。

まとめについて

○ペアで「単元の課題」を伝え合わせることで、一度自分の考えを整理してから表出できるようにする。

○児童から出てきた言葉を基に学級全体でのまとめをして、「単元の課題」を完成させられるようにする。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

○キーワードを基に「単元の課題」をまとめ、考えた「単元の課題」をペアで伝え合い、伝え合ったことを基に「単元の課題」を立てる。

T：キーワードを使って「単元の課題」としてまとめましょう。

S：自動車をたくさんつくるためどのような工夫をしているか。

S：ただの自動車ではなく「よりよい自動車」の方がよいかな。

S：人がいないと自動車をつくれないので、その人達の工夫を調べることがよいと思います。

【単元の課題】 自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車を
たくさんつくるために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。

○本時の授業で初めて知ったことや特に調べてみたいことは何かという視点で振り返りをする。

振り返りについて

○振り返りをするとともに次時への見通しをもたせることで、主体的に活動できるような意識付けをしておく。

指導例：『自動車をつくる工業』（第5学年 第4時）

指導のポイント

- 1 本時のめあてをつかむ。
- 前時の学習を資料を基に振り返り、機械によってすばやく安全に多くの自動車が生産されていることを確認するとともに、1日当たりの日本の自動車生産台数を知る。
 - 自動車工場働く人の写真から機械を使っているだけでなく人の働きの工夫も何かあるのではないかとに着目する。
- T：自動車はどんなふう生産されてましたか？
 S：機械を使っていたので、重たいものを簡単に運べていました。
 S：溶接も機械がやってくれていたから火傷もしないし安全でした。
 T：そうですね。機械があれば自動車がつくれそうですね。
 S：でも、それだけだとどうかな・・・人も工場働いていました。
 S：自動車を速くたくさん生産するために、人の働き方にも工夫があると思います。

〈めあて〉 組み立て工場働く人々は、よりよい自動車を効率よくつくるために、どのような工夫をしているのだろう。

- 2 一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。
- 教科書の「ひもスイッチとアンドン」、「指示ピラのついた車」の資料から、それがどのようなものなのかを確認する。
- T：ひもを引っ張るとアンドンと呼ばれる掲示板が光ります。指示ピラは何が書かれているかよく見てみましょう。細かく見ると何か気付くことはありませんか？
 S：引っ張ったひもの番号と光ったアンドンの番号が一緒です。
 S：奥のほうにもたくさん同じものがあります。
 S：指示ピラに説明のようなものや記号がたくさん書かれています。
 - 「ひもスイッチとアンドン」、「指示ピラ」がどのように活用されているかを調べ、ワークシートに記述する。

- 3 学級全体で、整理した情報を基に考察する。
- 「ひもスイッチとアンドン」、「指示ピラ」が、どのように役立っているか、ないとどうなるかを考え、ワークシートに記述する。
 - グループで考えを伝え合い、考えを補完していく。
- S：ひもスイッチやアンドンで異常を知らせられるんだね。
 S：それなら協力して異常を解決できるね。
 S：指示ピラにはお客さんからの注文が書いてあるんだね。
 S：それを見ながら作業をすればミスがないように確認ができるね。

- 4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。
- グループで補完しあった内容を発表し、組み立て工場働く人々の工夫についてクラス全体のまとめをする。
- S：ひもスイッチやアンドンを使うことで協力して異常を解決することができます。
 T：協力も工夫の一つだね。協力するとどんなよい点がある？
 S：分からないことがあってもチームリーダーに聞けるので早く解決できます。だから、自動車づくりが効率よく進みます。
 T：指示ピラについてはどうですか？
 S：指示ピラもミスを減らすのに役立ちます。ミスがないことも効率の良さにつながると思います。

〔まとめ〕 ひもスイッチやアンドンで異常を知らせたり指示ピラでチェックをしながらつくったりすることでミスを減らし、よりよい自動車を効率よくたくさんつくることのできるよう工夫している。

- 自動車に乗る立場から考えて、このような工夫がされていることをどう感じるかを視点に振り返りをする。

めあての設定

- 前時で解決しきれていない事象に視点を向け、本時のめあてを設定する。本時では「人の働き」を視点とすることで、本単元でつかませたい「工業生産に関わる人々が優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をしていること」を問題解決的な学習を通して理解できるようにする。

考えの構造化

- 児童が自分の考えを構造化しやすくするようなワークシートを用意し、



- 調べて得た事実
 (どのようなもので、どのように使われているか。)
- 得た事実から考えたこと
 (どのように役立つか、なかったらどうなってしまうか。上半分に自分の考え、下半分に交流で深めた考え。)
- を記述できるようにする。

考えを話し合う

- 教師がファシリテーターとなり、児童の考えをつなぎ深めていく。

まとめについて

- 児童の言葉を基に自動車づくりに関わる人々の工夫についてまとめられるようにする。

振り返りについて

- 自分との関わりについて考えられるような視点を与え内容の振り返りをする。

指導例：『自動車をつくる工業』（第5学年 第8時）

指導のポイント

- 1 本時のめあてをつかむ。
- 追究する過程で解決してきた自動車や自動車生産に関することを想起する。
 - 追究する過程で解決してきたことを基に単元の課題に対する結論を導く時間であることを確認する。
- T：自動車や自動車生産に関して、これまでの学習で調べてきてどんなことが分かりましたか？
- S：人と機械が作業を分担していて、早く正確に生産できることです。
- S：人がミスがないように工夫しているから効率的なことです。
- S：ニーズに応じて人や環境にやさしい、すごい車をつくっています。
- S：日本の車は安全で安心して乗れるから外国にも売ったり、外国につくったりもしています。
- T：それは、何を解決するために調べてきたことですか？
- S：単元の課題です。今日は単元の最後なのでまとめの時間ですね。

〔めあて〕 自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしていたのかをまとめよう。

- 2 一人一人が、学習してきたことを基に「単元の課題」に対する結論を考える。
- 自動車や自動車づくりについて調べてきた中で、最も印象に残っている工夫や努力について、短冊状のワークシートにキャッチコピーで表現し、その理由についても記述する。

- 3 学級全体で、「単元の課題」に対する結論を話し合う。
- 一人一人が考えた自動車づくりの工夫や努力に関するキャッチコピーとその理由を伝え合い、黒板に掲示する。
 - 掲示したキャッチコピーを黒板上で分類し、分類した視点や共通点を基にキーワードを考える。

- T：キーワードでまとめられるように、みんなでキャッチコピーを分類してみましょう。
- S：自動運転とエアバッグは安全とか安心。
- S：自動ブレーキ、ナイトビューも一緒だ。
- S：ハイブリッドカー、電気自動車は同じ場所に分けられる。
- S：排気ガスを減らせるから、環境に気を付けている車だ。
- S：手だけで運転できる車もあるよ。福祉だから・・・
- S：安全と福祉を一緒にして人にやさしい車でいいんじゃないかな。
- S：今出てきたのは全部ニーズに応じてつくったって言えるかな。
- S：機械を使ってと指示ビラやアンドンは工夫や努力だね。
- S：日本の車はすごい車だから、外国にも売っているし、そこで現地生産をしていることも大事だよな。
- キーワードが、単元の課題に対する結論に盛り込むものとして適切かどうか一人一人の考えを共有していく。



- 4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。（単元全体のまとめ・振り返りをする。）

- キャッチコピーについて話し合い、整理したことを基に、自動車や自動車づくりの工夫や努力について「分かったこと」、「気付いたこと」をノートに記述する。
- ノートに記述したことを発表し、整理しながら自動車や自動車づくりについての単元のまとめる。

〔まとめ〕 自動車づくりにかかわる人々は、お客さんのニーズに合わせて組み立て工場と関連工場が協力し、機械を活用して安全に効率よく生産できるよう工夫や努力をしている。

- これまで学習で解決してきたことやまとめが自分の生活にどのような影響を与えているかを視点に振り返りをする。
- S：安全性や環境についていつも考えて、たくさんの工夫や努力をしているからよりよい車がつくられて、自分たちの生活はとても便利になって、生活がしやすくなっていると感じました。だから世界でも人気があるし、日本の工業はすごいと思いました。

めあての設定

- 「単元の課題」に対するまとめをする時間なので、めあてには「単元の課題」の言葉をそのまま使う。
- これまで「単元の課題」に対して調べてきたワークシートを見て前時までの学習を振り返ることで、解決してきたことを確実に確認できるようにする。

一人一人の考えを生かす

- 時間を設定し交代しながら、全員が分類をする活動に取り組めるようにする。
- 見ている児童も前に出て分類をしている児童にアドバイスをしながら、協働的に解決できるようにする。
- 一人だけの考えや少数意見であっても、目を向けるべき視点に気付いた児童のつぶやきを教師が広げることで、全体での考えの共有や理解につなげられるようにする。

まとめについて

- 単元全体のまとめができるよう、「単元の課題」を児童に意識させてから「分かったこと」、「気付いたこと」を記述させるようにする。
- 児童の発言を基に全体でまとめをする。

振り返りについて

- 振り返りの視点を明確にすることで、これまで学んできたことと自分の生活を関連付けられるようにする。また、我が国の工業生産は世界に誇れるものであることにも目を向けられるようにする。

社会科学習指導案

平成30年10月 第5学年 指導者 樋口 晃

I 単元名 自動車をつくる工業

II 学習指導要領上の位置付け

- (3) 我が国の工業生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (イ) 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。
 - (ウ) 貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。
 - (エ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
 - (ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。

III 目 標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

ア (知識及び技能)

自動車生産に関わる写真やグラフなどの資料を活用し、必要な情報を読み取ったり、まとめたりのことを通して、自動車生産に関わる人々が消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産し、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。

イ (思考力、判断力、表現力等)

優れた自動車を多く生産し販売することについて、環境、安全、福祉の視点を生産に関わる人々の工夫や努力と関連させて考え、適切に表現している。

ウ (学びに向かう力、人間性等)

我が国の自動車生産の様子に関心をもち、問題を予想し、学習計画を考え、意欲的に調べている。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開 (1 / 8)

※吉山研修員と共同研究

1 ねらい 1965年頃と現在の自動車、日本の乗用車の普及率や生産台数の変化、1台の自動車に使う部品数や組み立て時間などの資料を基に、疑問や調べたいことを話し合い単元の課題を立てる活動を通して、自動車生産の様子やそこに携わる人々の工夫や努力を追究する意欲をもてるようにする。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの児童の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p>○1965年頃に多く乗られていた自動車と現在の自動車、街中を走行する自動車の写真、日本の乗用車生産台数の変化が分かるグラフ等を提示し、気付いたことを発言するよう促す。</p> <p>○日本の自動車工業について学習していくことや、本時が自動車工業の学習について「単元の課題」を設定する時間であることを確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 自動車やその生産に関する資料を基に、自動車づくりの学習について単元の課題を立てよう。</p> </div>			
<p>2 一人一人が、本単元の社会的事象に関わる資料を基に、疑問や調べたいことを考える。(15分)</p> <p>○学級全体で資料を読み取る視点などを確認してから個の活動に移るように助言する。</p> <p>○新旧の自動車、豊田市にある自動車工場の写真、日本の乗用車普及率や生産台数の変化、1台の自動車に使う部品数や組み立てにかかる時間、シートの組み立てなどの資料から、疑問や調べたいことをワークシートに記述するよう促す。</p>			
<p>3 学級全体で、社会的事象についての疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。(15分)</p> <p>○日本の自動車生産についての疑問や調べたいことを発言するよう促す。</p> <p>○発言内容の共通点などを確認したり、その理由を問いかけたりする。</p> <p>○板書の内容を基に「よりよい自動車」「たくさんつくっている」「工夫や努力」などのキーワードを共有させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>自動車工業の資料の読み取りや比較を基に、疑問や調べたいことを記述したり、発言したりしている。<記述・発言(1)></p> </div>			
<p>4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。(10分)</p> <p>○日本の自動車づくりについて、共通して解決すべきことを問い掛けるとともに、それぞれが考えた「単元の課題」の言葉を文で表しペアで伝え合うよう促す。</p> <p>○キーワードを基に、「単元の課題」の言葉を文で表し、板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>単元の課題 自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。</p> </div> <p>○本時の振り返りとして日本の自動車づくりについて、初めて知ったことや参考になった友達の意見、特に調べてみたいことなどを記述・発言するよう促す。</p> <p>☆自動車はどんどん性能がよくなって世の中に広がっているな。どうやってこんなすごい自動車をたくさんつくっているんだろう。調べてみたいな。</p>			

V 本時の展開（4／8）

- 1 ねらい 組み立て工場に関する資料から調べたことを基に、自動車生産における指示ビラやアンドンなどの役割を話し合う活動を通して、組み立て工場働く人々の工夫や努力を理解できるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの児童の意識
1 本時のめあてをつかむ。（10分） ○前時の学習を振り返り、機械によって約970万台もの自動車がすばやく生産されていることや、機械で正確かつ安全につくられていることを確認するよう促す。 ○自動車の生産工程の写真から、機械だけでなく人も関わっていることを確認させる。 ○これまでの学習で使った、1965年頃と現在の自動車の写真などの比較から、よりよい自動車が生産されていることを再確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて 組み立て工場働く人々は、よりよい自動車を効率よくつくるために、どのような工夫をしているのだろう。</div>			
2 一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。（10分） ○組み立て工場内に見られる「ひもスイッチ」「アンドン」「指示ビラ」が、どのような物でどのように活用されているかを調べるよう促す。 ○資料から読み取ったことを基に、児童の考えを構造化できるようなワークシートを用意する。			
3 学級全体で、整理した情報を基に考察する。（10分） ○「ひもスイッチ」「アンドン」「指示ビラ」について調べた内容を基に、それらがどのようなことに役立っているか、なかったらどうなるかをグループで考え伝え合い、ワークシートに記述するよう促す。 ○「～ができるようにしている」「～をなくすのに役立っている」のような文型を例示する。 ○グループで考えたことを発表するよう促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">よりよい自動車をつくるために、工場働く人々がどのような工夫や努力をしているか記述したり、発言したりしている。＜記述・発言（4）＞</div>			
4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。（15分） ○発表された児童の発言を基に、全体でまとめの言葉を文で表し板書する。 ○一人一人に本時のめあてを意識した学習の振り返りをするよう促す。 ☆ひもスイッチやアンドンで異常を知らせたり、指示ビラでチェックしたりすることでミスをなくし、よりよい自動車を効率よくたくさんつくっているんだね。			

V 本時の展開 (8/8)

※吉山研修員と共同研究

1 ねらい 日本の自動車づくりについてキャッチコピーで表現し合い、単元の課題の結論を考
える活動を通して、人々の工夫や努力が我が国の自動車工業を支える重要な役割を果たして
いることを理解できるようにする。

2 展開

学習活動 (分) ○ : 留意点 点線囲 : 評価 ☆ : 振り返りの児童の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p>○自動車をつくる工業における本時の位置付けが、「単元の課題」に対する結論を導く時間であることを確認させる。</p> <p>○よりよい自動車をたくさんつくるための工夫や努力について、追究する過程の各単位時間で解決してきたことを問いかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしていたのかをまとめよう。</p> </div>
<p>2 一人一人が、学習してきたことを基に、「単元の課題」に対する結論を考える。(15分)</p> <p>○前時までの学習で共有した内容を提示する。</p> <p>○自動車づくりについて調べてきた中で、印象に残っている工夫や努力について、キャッチコピーで表現するよう促す。その際、理由も合わせて記述させる。</p>
<p>3 学級全体で、「単元の課題」に対する結論を話し合う。(15分)</p> <p>○一人一人が考えた自動車づくりの工夫や努力に関するキャッチコピーを黒板に掲示させ、表現した理由を発言するよう促す。</p> <p>○自動車づくりに関するキャッチコピーを黒板上で分類させ、分類した視点を基にキーワードは何かを問い掛ける。</p>
<p>4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。(10分)</p> <p>○キャッチコピーを基に整理したことから、自動車づくりの工夫や努力について「分かったこと」「気付いたこと」を記述するよう促す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>消費者の需要や社会の要求に合わせて優れた技術を生かした開発や機械を使った効率的な組み立て工程、工場同士の相互の協力などが、我が国の自動車工業を支えていることを記述したり、表現したりしている。<記述・発言(4)></p> </div> <p>○児童の発言を整理し、自動車づくりについての単元のまとめを板書する。</p> <p>○「単元の課題」に対する結論を基に、本単元の振り返りをするよう促す。</p> <p>○「単元の課題」を協働的に解決できたことや、自分と社会との関わりについて考えられたことなどを称賛する。</p> <p>☆自動車づくりにかかわる人々は、ニーズに合わせて、組み立て工場と関連工場とが協力し、機械を活用して安全に効率よく生産しているんだね。そのおかげで、私たちの生活は快適なものになっているんだね。</p>

<p>目標</p>	<p>社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを旨とする。</p> <p>ア (知識・技能) 自動車生産に関わる写真やグラフなどの資料を活用し、必要な情報を読み取ったり、まとめたりすることを通して、自動車生産に関わる人々が消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産し、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。</p> <p>イ (思考力・判断力・表現力等) 優れた自動車を多く生産し販売することについて、環境、安全、福祉の視点を生産に関わる人々の工夫や努力と関連させて考え、適切に表現している。</p> <p>ウ (学びに向かう力・人間性等) 我が国の自動車生産の様子に関心をもち、問題を予想し、学習計画を考え、意欲的に調べている。</p>		
<p>評価規準</p>	<p>(1) 我が国の自動車の生産は、生産に関わる人々の工夫や努力による優れた技術によって支えられていることに関心をもち、その利点や課題について考えたり調べたりしている。</p> <p>(2) 自動車の生産に関わる人々の工夫や努力などについて、調べた事実を基に思考・判断したことを適切に表現している。</p> <p>(3) 我が国の自動車の生産について、地図やグラフ等の資料から、生産に関わる人々の工夫や努力、運輸など多面的な視点をもち、必要な情報を読み取っている。</p> <p>(4) 我が国の自動車の生産は、生産に関わる人々が消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をすることによって支えられていることを理解している。</p>		
<p>過程</p>	<p>時間</p> <p>○ねらい めあて</p>	<p>☆振り返り (意識)</p>	<p>◇評価項目 〈方法 (観点)〉</p>
<p>つかむ</p>	<p>1</p> <p>○1965年頃と現在の自動車、日本の乗用車の普及率や生産台数の変化、1台の自動車に使う部品数や組み立て時間などの資料を基に、疑問や調べたいことを話し合い単元の課題を立てる活動を通して、自動車生産の様子やそこに関わる人々の工夫や努力を追究する意欲をもてるようにする。</p> <p>自動車やその生産に関する資料を基に、自動車づくりの学習について単元の課題を立てよう。</p>	<p>☆自動車はどんどん性能がよくなって世の中に広がっているな。どうやってこんなすごい自動車をたくさんつくっているんだろう。調べてみたいな。</p>	<p>◇自動車工業の資料の読み取りや比較を基に、疑問や調べたいことを記述したり、発言したりしている。</p> <p>〈記述・発言(1)〉</p>
<p>【単元の課題】 自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。</p>			
	<p>1</p> <p>○単元の課題を解決するにはどのようなことを調べればよいか予想したことを基に、自分たちの考えを伝え合う活動を通して、単元の課題を解決する意欲をもてるようにする。</p> <p>〈調べる内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車ができるまで ・自動車づくりの工夫 ・関連工場との関わり ・外国との関わり ・安全や環境に対する工夫 <p>単元の課題を解決するために調べることや、その方法を考えよう。</p>	<p>☆工場ではどんなふうに自動車をつくっているのかな？早くたくさんつくったり、人や環境を大事にできるような工夫があるんじゃないかな？たくさんつくられた自動車は外国でも使われているのかな？</p>	<p>◇自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるためにどのような工夫や努力をしているかを予想し、調べる内容を考えて、記述したり、発言したりしている。</p> <p>〈記述・発言(1)〉</p>
<p>追究する</p>	<p>1</p> <p>○自動車をつくる工程の写真や動画を基に、どのように自動車がつくられているか調べる活動を通して、自動車が機械によって素早くたくさんつくられていることを理解できるようにする。</p> <p>組み立て工場働く人は、どのように自動車をつくっているのだろう。</p>	<p>☆自動車をつくるときに、危険な作業や重たいものを使うときは機械が主役になって、素早く正確にたくさんつくっているんだね。</p>	<p>◇自動車づくりの流れを、資料を基に読み取り、記述したり、発言したりしている。</p> <p>〈記述・発言(3)〉</p>
	<p>1</p> <p>○組み立て工場に関する資料から調べたことを基に、自動車生産における指示ピラやアンドンなどの役割を話し合う活動を通して、組み立て工場働く人々の工夫や努力を理解できるようにする。</p> <p>組み立て工場働く人々は、よりよい自動車を効率よくつくるために、どのような工夫をしているのだろう。</p>	<p>☆ひもスイッチやアンドンで異常を知らせたり、指示ピラでチェックしたりすることでミスをなくし、よりよい自動車を効率よくたくさんつくっているんだね。</p>	<p>◇よりよい自動車をつくるために、工場働く人々がどのような工夫や努力をしているか記述したり、発言したりしている。</p> <p>〈記述・発言(4)〉</p>
	<p>1</p> <p>○自動車のシート工場について調べたことを基に、組み立て工場と関連工場とのつながりに</p>	<p>☆自動車は、関連工場がいくつもつながって部品をつく</p>	<p>◇自動車は、組み立て工場と関連工場とが一つの工</p>

	<p>ついて伝え合う活動を通して、工場の連携について理解できるようにする。</p> <p>組み立て工場と関連工場は、どのようにつながっているのだろう。</p>	<p>っていて、それが組み立て工場に集まって1台の自動車をつくっているんだね。無駄なく効率的でもある反面、一つが止まると全ての動きが止まってしまうことには驚いたな。</p>	<p>場のようにつながり協力し合っていることを、記述したり、発言したりしている。</p> <p>〈記述・発言(4)〉</p>
1	<p>○原材料の輸入や、自動車の輸出先の資料から読み取ったことを基に、多くの自動車を販売できている理由を考え伝え合う活動を通して、日本の自動車工業が世界とつながっていることを理解できるようにする。</p> <p>完成した自動車はどのように消費者のもとに届けられているのだろうか。</p>	<p>☆日本は原材料を輸入して、つくった自動車を日本で売るだけでなく世界に向けて輸出しているんだね。1日に2500台も輸出されていてすごいな。現地生産も盛んになっているのには驚いたな。</p>	<p>◇日本の自動車が国内だけでなく海外でも生産・販売されていることを記述したり、発言したりしている。</p> <p>〈記述・発言(4)〉</p>
1	<p>○自動車が人や環境に与える影響や安全性の確保について調べ、伝え合う活動を通して、それぞれの立場の人々のニーズに応える自動車が生産されていることを理解できるようにする。</p> <p>人と環境にやさしい自動車づくりには、どのような工夫や努力がされているのだろう。</p>	<p>☆乗る人、障害がある人など、それぞれの立場の人のニーズに応じて、人や環境に優しい自動車が生産されているんだね。</p>	<p>◇人々のニーズに応え、人や環境に優しい自動車を生産していることを記述したり、発言したりしている。</p> <p>〈記述・発言(4)〉</p>
まとめ	<p>1 ○日本の自動車づくりについてキャッチコピーで表現し合い、単元の課題の結論を考えることで、人々の工夫や努力が我が国の自動車工業を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。</p> <p>自動車づくりにかかわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしていたのかをまとめよう。</p>	<p>☆自動車づくりに関わる人々は、ニーズに合わせて、組み立て工場と関連工場とが協力し、機械を活用して安全に効率よく生産しているんだね。そのおかげで、私たちの生活は快適なものになっているんだね。</p>	<p>◇消費者の需要や社会の要求に合わせて優れた技術を生かした開発や機械を使った効率的な組み立て工程、工場同士の相互の協力などが、我が国の自動車工業を支えていることを記述したり、表現したりしている。</p> <p>〈記述・発言(2)〉</p>

※本単元の学習後、「SUBARU」の矢島工場で見学を行う。